



花卉園芸学研究室での日々

花卉園芸学研究室学部4年

徳久千展

私が本稿を執筆しているのは朝夕が涼しくなり、秋の気配を感じ始めた9月中旬です。外を歩いていると、ふわっと金木犀の香りがしてつい引き寄せられてしまいます。私がこの研究室に配属されてからもう1年が経ちました。配属された当初は慣れないことが多く、先輩方にたくさんのことを教えていただき、だんだんと花卉研での生活に慣れていきました。そんなお世話になった先輩方が卒業されたのが、つい先日のように感じますが、花卉研にはもう、新しい3年生が来ています。もうそんな時期が来たのかと、時の過ぎ行く速さに驚きばかりです。花卉研に配属されてからの1年を振り返りながら、日々変わりゆく松戸キャンパス花卉園芸学研究室を紹介したいと思います。

今年3月、花卉園芸学研究室は新たに出口先生をお迎えしました。先生がいらっしゃったことで研究室に新しい風が吹き込まれ、これからどんどん変わっていくのだろうと楽しみに思います。松戸キャンパス花卉園芸学研究室では現在、3人の先生方にご指導いただきながら7人の学生が研究に励んでいます。松戸の花卉研ではダリア、トルコギキョウ、ラン、フロックス、カーネーションなど様々な花を取り扱っており、それぞれ圃場のハウスや畑で栽培しています。また、研究テーマとしては花の形態形成に関する遺伝子や交配育種、花色、うどんこ病などがあり、幅広い分野にわたって研究を行っています。松戸の花卉研では週に1回ゼミを行っており、一人一人が自分の研究に関わる論文を紹介しています。研究分野が幅広い分、全員に分かりやすい説明をすることはとても難しいなど毎回感じています。自分が紹介するときは、どこまで説明しようか、ここは図を入れた方が伝わるだろうかなど考え、資料をつくるのに時間がかかってしまいます。先輩方はとても紹介が上手で、わかりやすいので、そういった面でもゼミは勉強になっています。一人一人研究していることが違っても、お互いに気になることを質問したり、アドバイスをしたりすることでそれぞれが多面的に物事を考えられ、知識の厚みもどんどん増しているのではないかと感じます。

花卉研に配属されてからの1年で学んだことはたくさんあるのですが、特に植物の栽培に関しては初めてのことでだけでした。多くの人がそうだと思いますが、

私はこれまで施設を使った栽培を経験したことがなく、季節ごと少しずつ装備を変えていくハウスには驚かされました。冬はビニールをつけて加温し、夏は遮光をするのですが、特に初夏に行った石灰撒きが私の中では印象に残っています。遮光のためハウスの屋根に石灰を塗り付けるのですが、その方法が大胆でバケツで屋根にめがけて水に溶かした石灰を飛ばします。高い所から低い所までまんべんなく撒かなければならないのですが、なかなか思ったところに飛ばせず、「失敗した！ もう一回！」といいながらワイワイみんなでハウスを白くしていきます。作業が終わったころには全員、服や顔が石灰で白くなっており、不思議な達成感があります。雨が降ると石灰が取れてしまうので夏の間に何度か行うのですが、ちょっとしたイベントのようで少し楽しみでもありました。これから、私にとって研究室で2回目の冬を迎えます。天気気を配ってしっかりと栽培管理し、来年もきれいな花を咲かせたいと思います。

夏が終わり、卒業まであと半年となりましたが、まだまだ研究室でのイベントはたくさんあります。3年生の歓迎会、戸定祭、種子採り、修論・卒論発表会など盛りだくさんです。去年はどのイベントも要領がわからず、ついていくので精一杯でしたが、今年は一つ一つ丁寧に、そして楽しんで取り組んでいくことが目標です。そして、日々の生活も一日一日を大切に、共に過ごす研究室の仲間と助け合っていきたいと思います。まだまだ至らないことが多く、情けなくなることもあります。少しずつつなへ進み、成長していきます。

